

西日本インカレ（合同研究会）2015 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）キンキダイガク	フリガナ）ケイザイガクブ	フリガナ）ムラカミゼミ
近畿大学	経済学部	村上ゼミ

※申込書に記入したチーム名から変更する場合は、新旧両方の名称を記入してください。

※企画シート提出後のチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
フリガナ）コンバインムラカミ (キューチームメイ シーチーム)	フリガナ）イケジユウマ	8人
コンバイン村上 (旧チーム名 Cチーム)	池尻佑馬	

研究テーマ（発表タイトル）

農業 Project～きりひらけ八尾の未来～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

八尾市の野菜特産物の知名度をたくさん広めていき、地産地消をたくさん行い、八尾市がかつて言われていた農業大国というものをもう一度復活させたいという狙い。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

昔は農業大国と言われていた八尾市であったが、今現在では八尾市の野菜特産物の知名度がかなり低くなっており、八尾市の農業大国の面影がなくなってしまっている。J A 中河内もこの現状に困っており、どうにかしていきたいと考えている。実際にアンケートをとったところ 9 割の人が八尾市の野菜特産物を知らないと答えた。

3. 研究テーマの課題

八尾市の野菜特産物をたくさんの人に知ってもらい、知名度を上げるためには一体どのようなことを行えばよいのか、地産地消を行うにはどうすればよいのかということが課題である。どこと連携するのかということも大切であると考えた。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

知名度を広げるために、まずは八尾市の野菜特産物を知ってもらおうと、我々が在学している近畿大学の学食で八尾市の野菜特産物を使ったメニューを使用すればよいのではと考えた。マンモス校である近畿大学でそのようなことを行えば一気に知名度が上がると思い、考え付いた結果である。そこからさらに地産地消を行うために直接、直売所を設置することによってさらなる知名度のアップ、地産地消の拡大ができると考えついた。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

八尾市の野菜特産物を知っているかどうかや、近畿大学内に直売所があれば利用するかなどの学生を対象にしたアンケート。

八尾市の農業の現状を知るための J A 中河内へのヒアリング。

近畿大学の学食とコラボができるのかということと、八尾市の野菜特産物を使うことに対してのリスクやデメリットを知るための近畿大学の学食へのヒアリング。

直売所でどのような物が売っているのか知るために直接、直売所への訪問など。

6. 結果や今後の取り組み

アンケート結果ではやはり八尾市の野菜特産物を知っている人はほとんどいなかった。しかし、直売所を利用したいかというアンケートに対しては 3 人に 1 人が利用したいという結果が返ってきた。

J A 中河内でのヒアリングでは、やはり八尾市の野菜特産物の知名度が低いということを 1 番気にしていた。

近畿大学の学食でのヒアリングでは、やはり学生のニーズに合わせたメニューを出すためには安い野菜が 1 番うってつけであることがわかった。八尾市の野菜特産物はブランド物が多いため使用が難しい。しかし、八尾市の野菜が安くなるのであれば使用する可能性は大いにあるということがわかった。

直売所への訪問ではやはり八尾市の野菜が 1 番多く売っていた。種類もたくさんあり、八尾市の特産物として有名な枝豆が特にたくさん売っていた。さらに直売所で八尾市の特産物を使用し、第 6 次産業を行っている商品を発見した。それが紅たてを使ったお酢、醤油、シロップである。しかし我々は紅たてが八尾市の特産物だということと第 6 次産業を行っている農業があることに驚いた。これも八尾市の野菜特産物の知名度が低いという現状を表しているということに気づいた。

これらの現状を解決するために④で答えたように、近畿大学内での学食で八尾市の野菜等産物を使用したメニューを売り出し、八尾市の特産物を知ってもらい、そこからさらに学内で直売所を設置し、地産地消を行っていけるようになれば、かつて言われていた八尾市の農業大国が復活するのではないだろうかと思った。そのためには若者に農業のことを知ってもらう意識改革や地域貢献を行っていくことが大切であると我々は考えた。

7. 参考文献

<http://www.toha-search.com/keizai/tpp.htm>（アクセス日 2015/11/2）

http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_junior/h26/pdf/p8-11.pdf（アクセス日 2015/11/10）

<http://www.city.yao.osaka.jp/0000002037.html>（アクセス日 2015/11/2）

http://www.shakaika.jp/blog/7785/benitade_yao-2/（アクセス日 2015/11/2）

西日本インカレ事務局への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、西日本インカレ事務局への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までを渡します。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「西日本インカレ事務局への連絡事項」に記入してください。なお、本企画シート提出後のチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限りません。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※その他、注意点については「企画シート・パワーポイントの作成および提出について」をご参照ください。